



URL <http://www.o-think.co.jp>

平成20年度
1級土木施工管理技士 実地試験
解答試案

注意事項

- ・ この解答は、(株)オーシンク独自の見解により作成したものです。
- ・ 解答・解説等に関するお問い合わせは、教育事務局 (seminar@o-think.co.jp)宛メール、または、なんでも掲示板への書き込みにてお願いします。
- ・ 問題1(経験記述)は、受験者により異なるため省略しています。
- ・ 自己採点の目安等、個人使用の範囲でご利用ください。
それ以外の目的で利用される場合は当社まで御連絡ください。

株式会社 オーシンク

[問題 1] 省略

[問題 2]

〔設問 1〕

【解答】

(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)
水圧	ボーリング	ヒービング	ウェルポイント	薬液注入

〔設問 2〕

【解答】

土質改良方法		留意事項
①	石灰安定処理	散布後、直ちに混合を行い混合状態の良否を観察し、混合むらや未消化の生石灰が残った場合は再混合する。
②	セメント安定処理	混合効果の高い施工方法を選択し、改良効果を効率よく発揮させるため土との混合を十分に行う。

【解説】

〔設問 1〕

『社団法人 日本道路協会 道路土工 仮設構造物工指針 平成 11 年 3 月』を参照。

〔設問 2〕

『社団法人 日本道路協会 道路土工 施工指針 昭和 61 年 11 月』を参照。

[問題 3]

〔設問 1〕

【解答】

番号	適切でない箇所	訂正
⑤	一般のコンクリートに比べて大きくする	一般のコンクリートに比べて小さくする
⑥	表面仕上げがしやすい。	表面仕上げがしにくい。 (困難である。)
⑧	スランプ値が大きいものほど、	スランプ値が小さいものほど、
⑩	鉄筋位置が検査できる。	圧縮強度が検査できる。

上記の中から、3つ選んで解答すればよい。

〔設問 2〕

【解答】

①	コンクリートを 2 層以上に分けて打ち込む場合、下層のコンクリートが固まり
	始める前に行い、上層と下層が一体となるよう打重ね、時間間隔を定める。
②	打込みまでの時間が長くなる場合や外気温が 25℃を超えるときは、事前に遅延形
	AE 減水剤や流動化剤等の使用し、凝結時間を遅らせる。

【解説】

〔設問1〕〔設問2〕

『土木学会 コンクリート標準示方書 施工編 2007 年度制定』を参照。

[問題 4]

〔設問 1〕

【解答】

(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)
埋設物管理者	試掘	道路管理者	埋設深さ	立会

〔設問 2〕

【解答】

工法名		施工概要
①	表層排水工法	地表面にトレンチを掘削して、地表水を排除し、同時に地盤表層部の含水比を低下させる。
②	サンドマット工法	軟弱地盤上に厚さ 0.5～1.2 m 程度のサンドマット(敷砂)を施工し、圧密のための上部排水層とする。
③	敷設材工法	ジオテキスタイル等を敷設し、材料のせん断力及び引張力を利用して盛土荷重を均等に支持する。
④	表層混合処理工法	石灰やセメント等の安定材を攪拌混合し、地盤を改良することにより地盤の強度を高める。

上記の中から 2 つ選んで解答すればよい。

【解説】

〔設問 1〕

(イ)(ロ)(ハ)(ホ) 『国土交通大臣官房技術調査課 監修 土木工事安全施工技術指針 平成 13 年 改訂版 第 3 章 地下埋設物一般』を参照。

(ニ) 『国土交通大臣官房技術調査課 監修 土木工事安全施工技術指針の解説 平成 13 年 改訂版 第 3 章 地下埋設物一般 第 2 節 事前確認 埋設物の確認方法』を参照。

〔設問 2〕

『社団法人 日本道路協会 道路土工 軟弱地盤対策工指針 昭和 61 年 11 月』を参照。

[問題 5]

【解答】

〔設問 1〕

(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)
道路使用許可書	道路利用者	説明	交通誘導員	巡回

〔設問 2〕

有害要因	防止対策
バックホウの転落	掘削斜面の法肩にバックホウの転落防止措置を行う。
バケットと誘導員の接触	バケットの旋回範囲内への誘導員の立入禁止措置を行う。
バックホウとダンプトラックの接触	掘削土の積込みは、ダンプトラックの後方から行う。
地山の崩壊	土質に応じた勾配で掘削を行う。

上記の中から 2 つ選んで解答すればよい。

【解説】

〔設問 1〕

(イ)(ニ)(ホ) 『国土交通大臣官房技術調査課 監修 土木工事安全施工技術指針 平成13年 改訂版 第13章 道路工事 第2節 交通保安施設』を参照。

(ロ)(ハ) 『平成18年3月31日 国道利第38号 国道国防第206号 道路局路政課長 国道・防災課長通達』を参照。

[問題 6]

【解答】

〔設問 1〕

(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)
発生期間	建設機械	整備不良	エンジン	地域住民

〔設問 2〕

必要な手続き	概 要
届出事項の説明	元請業者は、都道府県知事に届出た事項について発注者に対して、届出事項を記載した書面を交付して説明しなければならない。
届出事項の告知と下請契約の締結	元請業者は、下請け業者に対し、都道府県知事または市区町村長への届出事項を告知したうえで下請契約を締結しなければならない。
再資源化終了時の報告	元請業者は、請け負った工事の特定建設資材廃棄物の再資源化が完了したときは、発注者に書面で報告しなければならない。
下請負人に対する指導	元請業者は、特定建設資材廃棄物の再資源化等を適切に行うよう、各下請負人の指導に努めなければならない。

上記の中から 2 つ選んで解答すればよい。

【解説】

〔設問 1〕

『建設工事に伴う騒音振動対策技術指針(昭和 51 年 3 月 2 日建設省機発第 54 号、昭和 52 年 1 月 8 日建設省機発第 5 号一部改正、昭和 62 年 3 月 30 日建設省機発第 57 号一部改正)』を参照。

〔設問 2〕

『建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(平成 12 年 5 月 31 日法律第 104 号、最終改正：平成 16 年 12 月 1 日法律第 147 号)』を参照。